

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (工 学)	氏名	Dahniar
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論 文 題 目 The "Open Veranda" ("Emper Terbuka") by Friedrich Silaban (フリードリッヒ・シラバンにおける「オープン ベランダ (エムペル・トゥルブカ)」)			
論文審査担当者			
主 査	准教授	角倉 英明	印
審査委員	教 授	西名 大作	印
審査委員	教 授	田中 貴宏	印
審査委員	准教授	金田一 清香	印
審査委員	准教授	水田 丞	印
〔論文審査の要旨〕			
<p>提出された学位請求論文「The "Open Veranda" ("Emper Terbuka") by Friedrich Silaban」(和訳:フリードリッヒ・シラバンにおける「オープンベランダ (エムペル・トゥルブカ)」)は、インドネシアにおいて第1世代の代表的な近代主義建築家と位置付けられる、フリードリッヒ・シラバン(1912-1984)とその個人住宅の設計活動に焦点を当てながら、「オープンベランダ」の概念と空間の形成過程を明らかにしたものであり、全6章からなっている。</p> <p>第1章では、まず、研究の背景、目的、既往の関連研究の成果と本研究の位置づけ等を明らかにしている。この中で、高温多雨なインドネシアにおいて古来よりベランダが居住環境形成に寄与してきたこと、シラバンにより提示された熱帯地域における近代建築の設計要件と理想的な住居標準においてオープンベランダの重要性が提唱されていることを指摘した上で、シラバンがオープンベランダの概念をどのように構築したか、オープンベランダの空間をどのように構成したかを明らかにすること、これら2つを具体的な目的として設定している。</p> <p>第2章では、文献調査に基づき、シラバンの建築家としての活動と建築理念を整理している。この中で、シラバンが1950年代に日本やインドなどを視察し、インドネシアでは熱帯の気候的特徴、地理的条件や生活パターンに配慮した上で近代建築の技術を適用することが重要であるという知見を得たこと、これがオープンベランダを求めたシラバンの建築理念の形成につながることを指摘している。</p> <p>第3章では、シラバンが記したテキストやスケッチなどの膨大な資料調査から、シラバンによるオープンベランダの概念形成のプロセスを明らかにしている。この中では、オープンベランダが単なる気候調整の機能から、軒との組み合わせによる</p>			

ファサードの構成機能へ、そして気候・ファサード調整機能に加え、伝統的な住宅のベランダに備わる社会的空間機能を有する総合的な概念へと次第に発展していったことが示されている。

第4章では、個人住宅の設計図書資料の時系列分析を通じて、シラバンによるオープンベランダの空間構成を明らかにしている。この中で、社会的空間としての正面のベランダや広い軒空間を持つ屋根など4つの設計手法が採用されていること、単純な空間構成から複雑・多様化したことを指摘している。

第5章では、シラバンによる住宅の中でも後期の重要作品であるリー・ア・ホン邸を取り上げ、オープンベランダの設計プロセスを明らかにしている。事前案から最終案までの設計4案を分析し、シラバンが正面と背面のベランダの組み合わせを基本とした複数の構成を適用し、それらが空間的にシームレスにつながる軸を形成していることを指摘している。また、最終的には、この軸の存在が屋内空間と庭園など外部空間を一体的に連続させる役割を担ったことにも言及している。

第6章では、前章までに明らかにした、シラバンによるオープンベランダの概念と空間の形成過程を再整理した上で、オープンベランダの概念がインドネシア固有の課題とユニバーサルな潮流を同時に受け入れながら形成されたこと、オープンベランダが地域固有の気候と近代建築を解釈する装置であったことを考察して本論文の結論としている。

以上、本論文は、綿密で広範な文献資料調査に基づき、これまで解明されていなかった熱帯地域において必需の半屋外空間であるベランダの現代的な形成手法を明らかにし、かつ、建築における伝統の融合に関する視座をもたらした論文であることから、建築学の発展に寄与するところが大きい。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（工学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考：審査の要旨は、1,500字以内とする。